

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1273800118		
法人名	社会福祉法人沼風会		
事業所名	グループホーム沼風苑		
所在地	千葉県柏市箕輪588		
自己評価作成日	平成25年11月1日	評価結果市町村受理日	平成26年2月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ACOBA		
所在地	千葉県我孫子市本町 3-7-10		
訪問調査日	平成25年11月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「自由。開放。安心。安全」の理念を、より分かり易くGH広報誌に掲げ、皆様が穏やかで充実した生活を送って頂けるように努めています。一年を通じて様々な行事があり、季節の変化を感じて頂けるように工夫しています。又、家族にも声を掛け一緒に参加してもらうことで、家族との繋がりを大切にしています。特養、デイサービスを併設している為、そちらのイベントに参加させてもらう機会も多く設けています。

当グループホームは3ユニットからなり、各ユニットとも独自の特色を出しながら、管理者を中心に全職員が利用者本位のケアに徹している。利用者の趣味、特技を活かしたレクレーションの実施等工夫した取り組みが多い。利用者家族アンケートでは、一人一人に寄り添った、心のこもったサービスに対する感謝の声が多く寄せられている。勤続年数が長く、経験豊富な職員が多いが、更に職員の専門性を高めるため、行政の支援を取り付けて、中身の濃い研修を実施している点も大いに評価できる。地域との付き合いも大切にしており、毎年、ホームの納涼祭は、職員が企画して、地域の方を巻き込んでの楽しい集いになっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果(せせらぎ)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	①自由な生活②開放的な生活③安心・安全の3つを挙げ実践している。また、もう少し具体的に表したものを広報紙に提示し心掛けしている。	法人の理念を踏まえて、ホームとして、「利用者に自分らしい自由な生活を楽しんでもらう」を掲げ、ユニット毎に具体的な行動目標を定め、理念の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	大井のつどいや箕輪の集いに参加。又、ボランティアの受け入れ、他施設との交流をおこない交流を深めている。	地域の集いには利用者が参加、ホームの納涼祭には地域の方を招待している。地域のボランティアが毎週来訪したり、地元の小学生からクリスマスカードが届いたり地域との良好な関係を築いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今現在はおこなえていないが、地区社協より依頼があれば受ける予定でいる。認知症の研修は法人内で行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年に3回開催している。会議録には全職員目を通し、改善が必要な場合には話し合いサービス向上に努めている。	運営推進会議には利用者家族、地域代表、包括支援センター職員などが参加している。前回の会議では、ホームの行事、地域交流、苑内研修等の状況報告があり、納涼祭等について意見交換している。出された意見はサービス向上に活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援支援センター、市の高齢者支援課介護基盤整備室と密に連絡を取り合っている。	包括支援センター職員との運営推進会議での意見交換に加え、市の担当者とはグループホーム連絡会等で連携しており、必要な時にはすぐに連絡が取り合える関係を築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	苑内研修を実施し理解を深め、身体拘束は原則しないケアを実践しているが、安全の為玄関の施錠やベッド柵の使用を行うこともある。その際はご家族の同意書を頂いている。	内外講師による苑内研修、検討会、定例会などを通じて、身体拘束に対する理解を深め、利用者一人一人に応じた対応をとりながら、原則身体拘束をしない実践に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待が見過ごされないよう日頃より申し送りをしっかり行い防止に努めている。外部研修に参加し理解を深め、実践している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要に応じて活用できる支援体制は整えられている(外部研修の参加など)		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	いずれの場合も十分な説明をおこない、家族の不安や疑問点がないか尋ね、納得、理解の得られるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にて報告し意見を聞いている。また、玄関に意見箱を設置したり、面会の際に職員から意見要望を尋ね反映できるよう努めている。必要であれば家族にカンファレンスに参加していただいている。	運営推進会議に加え、利用者家族の訪問も人によっては週3回と多く、その都度直接意見交換している。出された意見は、新設されたサービス管理部門で検討され、サービスの質の向上に結びつけている。職員の対応に対する家族の評価も非常に高い。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	普段から意見を言いやすい雰囲気作りを心掛けています。月1回、セクション会議があり自由に意見・提案することが出来る。	各ユニットとも職員と管理者との情報交換が日常的になされており、意見は出しやすい雰囲気になっている。セクション会議の議事録も全員回覧され、更に職員間で話し合った上で、出された意見を運営に反映させている。	職員の研修にも力を入れているので、その成果を活かし、現状でも高い評価を得ているサービスではあるが、更なる向上への取り組みを期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	出来る限り職場環境を整えてくれている。キャリアパスを導入している。様々な研修があり、自由に参加できる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	苑内研修や外部研修を通じて、職員の知識・技術の向上に努めている。今年度より、外部講師を招いている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のグループホーム連絡会があり、意見交換など幅広く行えている。(スタッフ交流会など)		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	常にコミュニケーションを心がけ、本人の言葉や表情や態度等から不安・要望をくみ取り、安心な生活が営めるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居者の生活歴等を聞き、職員間で共有するように心がけている。家族の訪問時には細かな情報交換を行い信頼関係を築く様に心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	随時取り入れられるよう、職員各自が変化に注意している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族的な雰囲気作りを大切にしている。家事など出来ることは極力、やってもらうようにしている。また、時には教えを乞うなど工夫している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事への参加を呼びかけ、共に過ごし本人の事への理解を深めてもらえるような機会を提供できるよう心掛けている。こまめに畑を管理しに来てくれる方や毎週、宿泊される方など良い関係が築けてきている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	年賀状を出したり、家族と一緒にの外出や遠方の方や大勢での面会等もおこないやすい環境作りを心がけている(特別面会室)。ボランティアの訪問や地域の集いにて、知り合いに会うこともある。	特別面会室は、遠方からの家族や面会の方とゆっくり過ごせる場所で、宿泊も可能となっており、利用者との団欒の時間を支援している。毎回「地域の集い」のレクリエーションに参加している利用者は顔馴染みになり、新たな知り合いもできている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	各自のレベルや趣味・趣向を知り利用者同士がスムーズな関わりが出来るような支援を心がけている。お互いの居室を訪問するなど関係が出来ている方もいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	特養や新館に異動された方に散歩がてら会いにいき、近況を共有している。サービス終了後も相談に応じるなどしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員間で利用者の情報共有を徹底し、日常生活や会話等から希望・意向を探り、カンファ等を開き検討・対応している。	利用者ひとり一人に寄り添った穏やかな安心できる生活をめざしている。声にならない声が必要との思いを職員間で共有し、日頃の生活や会話、表情から利用者の気持ちを汲み取る努力をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ケース記録を徹底し、職員間で共有できるようにしている。又、利用者本人とのコミュニケーションに努め内面から知っていけるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録により日々の変化や気づいたこと等、情報を共有している。又、カンファレンスを行い職員全員が把握できるようにしている。必要であれば、その都度アセスメントを行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	小さな変化や現状を細かくナース、ケアマネにも相談・報告しカンファレンスを開いている。担当者会議に家族も参加してもらい現状や問題点等を把握してもらっている。	担当職員から細かな変化や現状が提示され、ケアマネ、看護師、職員でカンファレンスが開かれ、新たな計画が作成される。担当者会議への家族の参加は、利用者の現状を伝え、また家族の思いを知る機会でもあり、サービス向上に活かされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録を行い、又、ケアプラン考察、月間考察をおこないプランの見直しのためのミニカンファを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	希望・要望に常に耳を傾け、その時々で話し合い常に柔軟な姿勢で取り入れている。月1回、入居者と献立を作り、買い物から調理まで行う取り組みをしている。(美味しい物が食べたい、買い物に行きたいというニーズから)		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	時々ではあるが、買い物に行く等している。ボランティアが積極的に来苑してくれている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回、定期的に往診を受けている。歯科は毎週水曜日往診あり。急変時は電話での指示やナース対応もしている。	協力病院による定期的な往診、緊急時は医師と相談できる体制が有り、看護師も常勤している。毎週訪問歯科による口腔ケアが行われている。リハビリはPT(整復師)が当たり、医療体制は充実している。	職員は口腔ケアの摂食・嚥下リハビリテーションや肺炎予防の研修を受けているので、これらを内部伝達し、更に充実した口腔ケアの取り組みを期待したい。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調の変化、食事量、便秘など報告相談し指示をもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	スタッフが自主的に見舞いに行き、家族や病院からの情報を入手して対応している。また、定期往診時ドクターより様子を聞いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医師、家族等と十分に話し合いをし、確認書を取り交わし終末期のあり方等入居者に合わせたケアをスタッフ全員で共有し行っている。	「看取りに関する指針」が作成されている。家族とはその都度どのような終末期を望むかも含め、医師を交えて充分話し合いが行われ、確認書を取り交わしている。職員は全員看取りについて研修を受け、方針を共有して臨んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当の訓練を定期的におこなっている。看護師、協力病院にも連絡がとれるようマニュアル作成している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立ち合いでの訓練(年2回)、他にも地震や火災を想定した自主訓練をおこなっている。地区の消防団に加入している。	消防署立ち合いによる訓練や、防災委員会が計画する、地震や火災を想定した訓練が行われている。火災の発生個所をその都度替えて、避難経路の確認と何分で避難できるか実証している。個人別「引き継ぎカード」が作成され非常時に備えている。	

自己 自己	外部 外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の人権を尊重することを一番に考えている。個人記録などは厳重に管理している。特に呼び方には気を付けている。	利用者を尊重し、人としての結びつきを大事にする、パーソン・センタードケアを実践している。本人の思いの何がしたいか、したくないかを把握し、自分の力で決める事の出来る支援に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望を表せるように働きかけたり、一人一人の理解力に合わせて説明を行い、自分で決定できるような声掛けなどを行いながら納得して生活してもらえるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間以外は、できるだけ利用者のペースに合わせるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧をしたり、洋服を選んでもらったり、その人らしくなるように支援している。また、洋服を褒める等を心掛けている。3か月ごとに資生堂化粧教室を開催している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとり、何が出来るかを確認し、皿洗い、皿拭き、テーブル拭き等無理のないように一緒におこなっている。また、ハシなど出来るだけ自分のものを使用している。テーブルに花を飾ったりしている。	野菜の下拵えや食器拭きなど自分のしたい事を一緒にし、張り合いを持っている。買い物から調理まで、利用者がする「料理の日」は、本人の力を引き出す取り組みとして継続されている。利用者と一緒に育てた野菜も食卓に上がっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士と相談の上、メニューを決めている。食事形態も一人一人に合わせて対応している。必要に応じて食事量、水分量を記録し確保できるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後行っている。歯科往診にて行っている方もいる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄サインに気づくよう努力している。排泄パターンを把握し、個々に合わせ支援している。日中はできるだけトイレで排泄できるようにし、立位が取れない方には二人介助を行っている。	ひとり一人の排泄サインに気づき、羞恥心に配慮した、その方により添った支援をしている。日中はトイレで、立位の取れない場合も2人介助で座位での自立排泄を促している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘状況は常に把握しており、一番いい方法(薬、牛乳など)を看護師や栄養士と相談して対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日、風呂は沸かしてあり個人の希望に沿って、時間を問わずに入浴してもらっている。夜間は安全の為、行っていない。	ヒートショック対策がとられたお風呂が毎日沸かしてあり、希望により好きな時ゆっくり入浴できている。入浴拒否の方も無理強いせず、言葉掛けの工夫や本館の檜風呂入浴に誘い、気分を変えるなどの対応をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入床時間は決まっておらず、一人一人の習慣・状態および体調を観察しながら安眠できるように支援している。日中も自由に休んでもいただける様にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋をいつも見れるようファイルにして保存しており、症状の変化に気を付けるように努めている。処方が変わった時は、申し送りを徹底している。誤薬防止の為、複数回の確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	アクティビティー・家事・散歩等の実施で生活に楽しみ、喜びを見出している。また、どんな事に喜びを感じるのか？普段からよく観察しケアに取り入れる様に心掛けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、外気浴・ドライブ、買い物など外出の機会を設けている。日帰り旅行の実施も毎年おこなっている。	建物を囲むデッキを歩き外気浴を日課としている方やボランティアの方と畑を散歩するなど、戸外に出る機会を支援している。スーパーへの買い物に誘い、社会性の維持にも心掛けている。バラ園日帰り旅行ではレストランでの食事や自ら買い物をする機会を設け自立支援を工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ファミリーマートの出版販売や、日帰り旅行で買いものをする機会を設けている。自分で管理できる方には自分で管理してもらっている。ヤクルト訪問販売や自動販売機を利用することもある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話に応じたり、希望時に電話をかけたりしている方もいる。はがきを書いたり、家族に自分の思いを書き出せるように支援している。携帯電話を利用している方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間を利用し、刺激のないように考慮し、季節の花、行事、お誕生会の写真を飾ったり、季節感を常に感じていただけるよう生活に取り入れている。	清掃の行き届いたホールは隅々まで綺麗で明るく、心地よく過ごすための配慮が見られる。図書コーナーの有る食堂は、写真の多い雑誌など置かれ、いつでも寛げるようソファが置かれている。資生堂のメイクアップ教室で笑顔になった利用者の写真が印象的で話題になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	、お互いの相性を考慮して声掛け、席の工夫をし、笑顔をみられるよう心掛けている。廊下の談話コーナーにイスを置き、静かに過ごせる場所を設けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には自ら使用していた家具・小物などを配置し、安心して過ごせる様にしている。温度管理、清掃にも注意している。	お気に入りの家具が置かれ、穏やかに過ごせている。気の合った友達同士、お互いの部屋への自由な行き来も見守られている。掃除を手伝う方もあり、利用者の「したいことをする」支援で整頓された居心地良い部屋となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個人の残存機能・能力を生かし、見守り、声掛けを行うことで安心・安全な生活がおこなえるよう支援している。できる家事はなるべく入居者にしてもらうように心掛けている。		